

研究主題「豊かに感じ、思いをもって表現するための指導の工夫 —音楽づくりの活動を通して—」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
足立区立古千谷小学校 主任教諭 赤星 光江

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領音楽科（平成20年8月）の改善の具体的事項の一つに「音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現する力」を育成することが挙げられている。「音楽を豊かに感じ取る」ことは、豊かな心を育む基盤となり、音楽の様々な特性に対する感受性を育てることになる。

豊かに感じ取らせるためには、教師は楽曲全体の醸し出す曲想のよさや面白さに気付かせ味わわせるようにしたり、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなど、音楽を形づくっている要素に気付かせ、聴き取らせたりするとともに、それらの働きが生み出すよさや面白さ、楽しさを感じ取らせる工夫を行うことが大切である。しかし、特定の課題に関する調査（音楽）（平成22年7月国立教育政策研究所）によると、創作の授業において、「児童が自分のイメージや思い、場面や様子などを音や音楽で表現できるように指導を工夫している。」と回答した教師が約3割であった。

そこで、児童が音楽を聴くことによって、感じ取ったことを基に、自分から「こう表現したい」という考えや願いをもつことができ、思いをもって表現することができるような活動を考えたいと思い、表現領域「音楽づくり」を通して研究することとした。

第2 研究の内容と方法

研究仮説 音楽づくりの活動を通し、学習のねらいを理解させ、段階的な指導の工夫をすることによって、児童は豊かに感じ、思いをもって表現できるであろう。		
基礎研究 ・ 学習指導要領から「音楽づくり」に関する記述の抽出・分析 ・ 身に付けさせる力などの発達段階に応じた系統表を作成・整理 ・ 小学校、幼稚園の授業分析・研究 ・ 「豊かに感じ」「思いをもって表現」している授業の実践や「音楽づくり」に関わる先行研究、文献研究	調査研究 都内公立小学校音楽専科教員を対象(47名) ・ 豊かに感じ、思いをもって表現するための指導に関する事 ・ 中学年を中心とした「音楽づくり」の学習内容 ・ 「音楽づくり」の学習内容における実態と課題 都内公立小学校第4学年児童を対象(106名) ・ 音楽の学習全般や「音楽づくり」の学習における興味・関心 ・ 授業への取組に関する意識	開発研究 ・ 音楽づくりの段階的な指導の手順を示した表の作成 ・ 学習指導案の作成及び学習カード・掲示物の作成 ・ 検証授業の実施と考察

1 基礎研究

「段階的な指導の工夫」について

小学校学習指導要領音楽科「音楽づくり」の記述から、「低学年、中学年、高学年の指導のねらい」「指導事項」「活動例」などを系統的に分析していった。「音楽づくり」の授業は、児童が自らの感性や創造性を発揮しながら行われるものである。音遊びや即興的に表現する能力及び音を音楽へと構成する能力を身に付ける学習を通し、一人一人の児童が「思いをもって」表現できるのではないかと考えた。

そこで、「思いをもって」表現するために教師はどのような働きかけをすればよいのか、児童の思考の過程（表1）に沿った指導の手だてを考えることとした。

表1 音楽づくりにおける「思いをもって表現する」ための段階的な思考の捉え

	段階	内 容	児童の感じ方や考え方の例
I	感じ取る段階	楽曲全体の醸し出す曲想を楽しんだり、音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取る段階。思いや表現につなげていけるように感じ取らせる。	弾むような感じ。音が重なっていておもしろい。
II	思いをもたせ、意図に結び付ける段階	自分なりの思いをもち、考えや意図をもつ段階。感じ取ったことを基に、音楽を形づくっている要素や〔共通事項〕を関連させながら自分なりの考えがもてるようにする。	花火のパンパンというリズムを表したい。繰り返してしてみる。
III	思考・判断して表現する段階	自分の音楽的な意図を音楽として表そうと思ふ・判断している段階。音楽の仕組みを手がかりとして、これまでに身に付けた音楽の能力を活用し、まとまりのある音楽をつくることのできるような手だてを考える。	リズムを何回か繰り返したあと、Aさんのリズムを加えていく。

※ 児童が感じ取ったことを基に、思いをもって表現するために、「段階的な指導の工夫」を行う。それぞれの段階で設定した「ねらい」に沿った教師の指導・助言により、児童の活動が主体的・創造的になっていくと考える。

2 調査研究

(1) 目的 音楽づくりの活動を通して、豊かに感じ、思いをもって表現することに関する指導の実態を把握する。

(2) 対象 都内公立小学校音楽専科教員 47 名 都内公立小学校第 4 学年児童 106 名

(3) 調査結果

ア 教師への調査

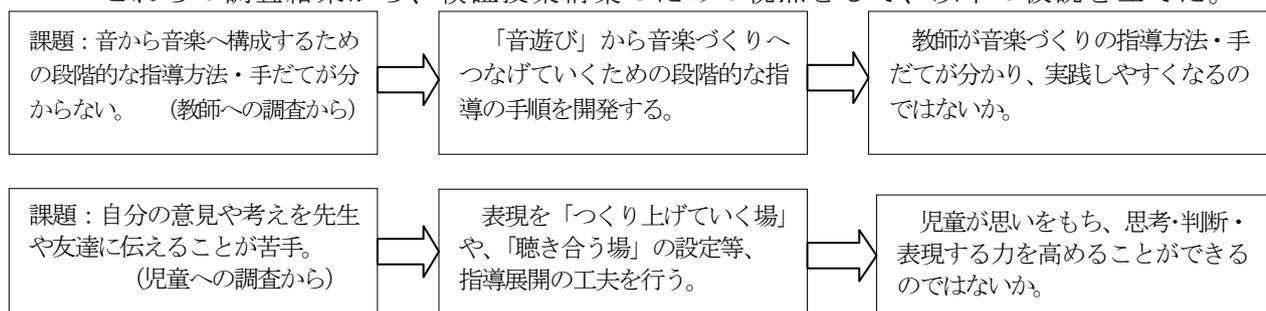
「音楽づくり」の指導に関し、95%の教員が音楽づくりの指導に難しさを感じている。その理由として「音遊びやリズム遊びの指導でとどまってしまっている。(83%)」「音から音楽へ構成するための段階的な指導方法・手だてが分からない。(81%)」などが挙げられている。

イ 児童への調査

「友達の意見や考えを参考にして演奏している。」に否定的な回答をした児童が 13%であったのに対して、「自分の意見や考えを先生や友達に伝えている。」では 40%と否定的な回答が高かった。このことから、感じ取ったことを基に自分の意見や考えをどのように言葉で伝えたらよいか分からない児童の実態が明らかになった。

ウ 調査の結果と考察

これらの調査結果から、検証授業構築のための視点として、以下の仮説を立てた。



3 開発研究

(1) 「音楽づくり」における段階的な指導方法の開発

	段階	ねらい	教師の働きかけ・指導の工夫・留意点
I	感じ取る段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲全体の特徴を感じ取り、音楽の仕組みや要素が醸し出す面白さに気付く。 ・ 音楽のよさや美しさを感じ取る。 ・ 音楽を形づくっている要素などに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 音楽を形づくっている要素の、何を感じ取らせたいのかを絞り、何度も繰り返し聴く中で気付かせる。 ◆ 楽曲全体の曲想と音楽を形づくっている要素の両方を感じ取らせる。
II	思いをもたせ、意図に結び付ける段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感じ取ったことを基に自分が表現したい音楽に対する思いをもつ。 ・ 音楽の要素と結び付けて自分なりの考えをもつ。 ・ 音楽の要素や仕組みを生かし、構成を考えようとする意図をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分の思いを表現させるために「共通事項」のどこに着目をさせればよいのか、紹介したり考えさせたりする。 ◆ 既習事項を生かしながら、「こうしたいから、こうする」という意図を明確にさせる。
III	思考・判断して表現する段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素を意識しながら思考・判断して音楽づくりに取り組む。 ・ 音楽の仕組みを生かし、まとまりのある音楽をつくって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしたり、音楽の始め方や終わり方を意識させてまとまりのある音楽をつくるようにする。

(2) 指導展開の工夫

ア グループで表現をつくり上げていく場の設定

- ・ 児童が表現したい音楽を自分で考え、お互いの意見やアイデアを紹介し合ったり、グループで考えを出し合ったりする場の設定を行い、「工夫する観点」を明確にさせた（表2）。
- ・ 他のグループとつくった音楽を聴き合ったあと、友達の意見や考えを参考にして、よりよい音楽をつくり上げていった。

イ つくり上げた音楽を聴き合う場の設定

児童は他のグループの発表を自分たちの表現と比較しながら聴く。その際に、「聴く観点」を明確にして互いの発表を聴き合い、よかった点やアドバイスなど感想を書き、意見交換をすることで、友達の意見や考えを参考にして自分の演奏に生かすきっかけとした（表3）。

表2 検証授業における例

〈音楽をつくるポイント〉	（揭示物）
○	どんなイメージで表現するのか考える。
○	重ね方を考える。
○	つなげ方を考える。
○	繰り返す回数を考える。
○	始め方、終わり方を考える。

表3 検証授業における例

〈発表する際の確認〉	（揭示物）
発表の仕方	音楽をつくるポイントのどこを工夫したのか、自分たちの思いやイメージが聴いている人に分かるように伝える。
発表を聴くポイント	<ul style="list-style-type: none"> ◎ どんなイメージで表現しているのか想像しながら聴く。 ◎ 音楽をつくるポイントに注意しながら、よかったところやアドバイスを感想カードに記入する。

4 検証授業

(1) 題材名 「夏の思い出の音楽づくりをしよう」（第4学年）

(2) 題材の目標 リズムや強弱を工夫したり、音楽の仕組みを生かしたりして夏の思い出の音楽づくりをする。

(3) 指導計画 （4時間扱い）

時数	学習活動	◆ 具体的評価規準 〈評価方法〉
〈第一次のねらい〉	音楽を形づくっている要素に気付く。	
I 1/4時間目 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ロック・トラップ」を聴き、音楽の特徴を感じ取る。 ・ 3種類のリズムを練習し、特徴を感じ取る。 ・ リズムをつないだり、重ねたりして「反復」「変化」することのおもしろさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ア①リズムの組合せや音楽の仕組みに興味をもち、進んで音楽づくりに取り組もうとしている。 <p>〈行動観察〉</p>

時数	・ 学習活動	◆ 具体的評価規準 <評価方法>
<第二次のねらい> 音楽の要素や仕組みを生かしながらまとまりのあるリズムの音楽づくりをする。		
Ⅱ4/2 時間目 前半	② <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の要素と結び付けて、自分なりの思いをもつ。 ・ 自分の考えをリズムに表現する。 ・ 2人組になり、友達とあわせ、2小節のリズムにつなげる。 	◆ イ①自分なりの発想をもって表現を工夫している。 <行動観察・ワークシート>
Ⅲ 2/4時間目 後半 3/4時間目	③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の要素や仕組みを生かし、グループで構成を考えながら、まとまりのある音楽をつくる。 ・ グループごとに発表する。 ・ お互いの演奏を聴き合い、感想を書きながら、自分たちの表現と比較したり、生かしたりする。 	◆ イ②音楽の仕組みを生かし、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 <行動観察・ワークシート>
4/4時間目	④ <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見や考えを参考にして、自分の演奏に生かす。 	◆ ウ①リズムをつなげ、まとまりのある音楽をつくっている。 <演奏聴取>

第3 研究の成果（検証授業の分析と考察）

授業での様子や学習カードから、それぞれの段階ごとにねらいを明確にし、教師の働きかけを行うことで以下のような肯定的な記述を得た。

I	感じ取る段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強く演奏しているときもあれば弱くなっているところもあった。 ・ リズムが強く、速くなると激しい感じを表すようになることが分かった。 ・ 同じリズムを繰り返して演奏されているのがよかった。
Ⅱ	思いをもたせ、意図に結び付ける段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「静岡」の海へ行った時、ワクワクしたから弾むようなリズムを表現したい。 ・ 「北海道」は「大きい」から足で床を力強くならしてみたい。
Ⅲ	思考・判断して表現する段階	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に全員がそろえ、同じリズムを演奏する、という工夫がよかった。 ・ 始めるタイミングをそろえるために、最初の2人が立って、そのあと、次の2人が続けて演奏するというやり方を考えた。 ・ 花火がだんだん数多く打ちあがる様子分かるように音を増やしていった。

検証授業後の調査（表4）で、②に関しては、児童の感想の中に、「アドバイスを書いてくれたから、それを基に（再度作り直す場面で）工夫ができた」とあり、このような実感をもてた児童が増えたのではないかと考える。また、③に関しては、児童が音楽の仕組みを理解し、音楽のよさを感じ取り、それを言葉で表し、自分なりに「こういうよう

に表現したい」という「思い」をもつことができたからではないかと考える。そして、最も変容が見られた④に関しては、話し合ったり、聴き合ったりなどの場の設定を行い、自分の考えなどを相手に伝えることができた児童が増えたのではないかと考える。

第4 今後の課題

段階的な指導の手順を示した表を基に、今後は実践を通して更なる授業の充実を図っていきたい。また、「音楽づくり」以外の分野である歌唱、器楽や鑑賞領域においても、「豊かに感じ、思いをもって表現させるための段階的な指導の工夫」を考えていく。

